

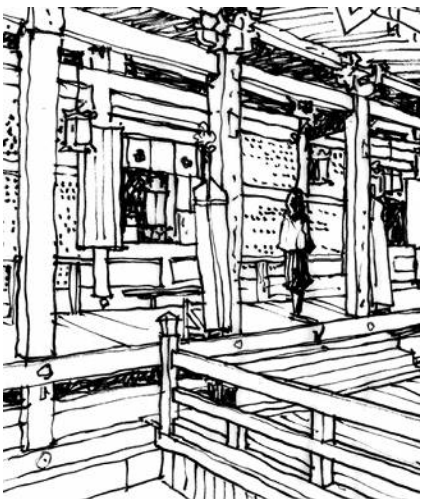
廣峯ものがたり（三月）
吉備真備と陰陽道

「暦のはじまり」

日々の暮らしから祭事や仕事に至るまで、いつ頃に何を始めれば良いのかを知るために「こよみ」が使われています。

現在では、今年の恵方に厄年、九星や日々の運勢、生活に関する知恵など、実に様々な情報が掲載されていますが、こよみはもともと中国から伝わってきました。

廣峯神社の由緒記には、創建者である吉備真備公が遣唐使（留学生）として唐（中国）に渡り、永き十八年をかけて十三道の学問を修学。特に陰陽を極め、帰朝後に陰陽暦学を世に広めたいと考えたとあります。



そして、日本の神々を唐ノ国の暦神におきかえ、素戔鳴尊を牛頭天王・天道神に、奇稲田媛命を頗梨采女・歳徳神に、天照大御神との誓約で誕生した八王子の神々を八将神に配して、こよみを司る日本の暦神とし、廣峯神社の本殿に祀ったと書いてありました。

このことから廣峯神社は「こよみの神様」を祀る暦学の元宮とされ、農耕を中心とした国民生産の神様、また、吉凶の方位を示す方除けの神様、牛頭天王の故事に由来する病氣平癒の神様、海陸交通厄難除けの神様として篤く信仰されるようになり、その信仰は広範圏に及んだようです。

ちなみに「こよみ」の方位吉凶の恵方・あきの方の絵柄は奇稲田媛命で、太歳神、大將軍他は八王子をあらわしています。